研　究　成　果　報　告　書

2026　年　2　月　2　日

１．所属・職・氏名　等

教養学部　比較文化学科・講師・片山 夏紀

２．研究課題（テーマ）名

ルワンダジェノサイドの犯罪を調停したインフォーマルなガチャチャ

３．研究期間

2025 年 6 月 11 日～2026 年 2 月 2 日

４．利用した研究費の種類及び金額

学術研究費交付金 25 万円
若手教員研究促進交付金 50 万円
研究活動スタート支援交付金 25 万円
外部資金獲得支援交付金 10 万円
110 万円

５．研究の概要

本研究は、アフリカのルワンダで 13 世紀から始まった民事問題の調停制度「インフォーマルなガチャチャ」に焦点を当てる。「インフォーマルなガチャチャ」は、1994 年に起こったジェノサイドの刑事犯罪を調停した。民事的な調停制度でジェノサイドの刑事犯罪を裁くという世界でも稀な試みであったが、その記録はほとんど残されていない。本研究は「インフォーマルなガチャチャ」に直接関わった人々に調停の経緯を聞き取り、記録を残すことを目的とする。調停の記録から見えてくるジェノサイドの実態を、ジェノサイドを経験していない若い世代に発信することを目指す。

６．研究成果等

申請者は研究計画に沿い、2025 年 5 月 17 日に京都大学で開催された日本アフリカ学会で調査の方向性を発表した。それについて、日本のルワンダ研究第一人者である武内進一東京外国語大学教授からアドバイスを賜った。さらに、国際開発学専門の斎藤文彦龍谷大学教授からは「大切な研究なので頑張って」と激励された。なお、学会会場では阿毛久芳都留文科大学前副学長の御息女でありアフリカ研究者の阿毛香絵京都大学准教授と面識を持った。

2025 年 8～9 月に現地調査を計画しており、それに備えて 7 月 16 日に都留文科大学から研究倫理の承認を得た。ところが申請者は大学研究室で突然顔が異常に腫れる事態に陥った。都留市立病院、山梨厚生病院、立川高島屋 S. C. 大腸胃食道の内視鏡・消化器内科クリニック

ックで精密検査を受けたが、原因は特定できなかった。医師からは症状が悪化する危険性を指摘され、安静にするよう忠告された。よって、計画していた現地調査をやむを得ず断念した。現地調査は 2026 年 2 月 8 日～3 月 1 日に実施する。

また、複数の大学や市民団体で本研究に関する講演を行った。主催者やコメンテーターと暴力の記憶をテーマに活発な議論を交わした。ルワンダジェノサイドの記憶と、アフリカのスーダンやシエラレオネ紛争、イスラエル・ガザ戦争、長崎の原爆被害、沖縄地上戦などの暴力の記憶を比較している。このテーマについては 2026 年 12 月に共著で英語のワーキングペーパーを発行し、研究成果とする。

7．研究の実績（論文・発表　等）

- 学会発表「ルワンダ政府が意図しないところで行われているジェノサイドの被害者と加害者の和解：ガチャチャ裁判が命じた賠償をめぐる対話」日本アフリカ学会 京都：京都大学（2025 年 5 月 17 日）
- 講演「ルワンダジェノサイド後の農村社会の差別構造を考える」ふぇみゼミ U30 第 2 回 東京：北区赤羽（2025 年 6 月 27 日）
- 書評「歴史が生みだす紛争、紛争が生みだす歴史：現代アフリカにおける暴力と和解」(佐川徹、竹沢尚一郎、松本尚之編, 春風社, 2024)『アフリカ研究』第 107 号 pp.61-63（2025 年 5 月 31 日発行）
- 特別講義「アフリカの小さな国ルワンダで起こったジェノサイド」都留文科大学オープンキャンパス（2025 年 8 月 2 日）
- 講演「ガチャチャ裁判が命じた賠償」宇都宮大学多文化公共圏フォーラム第 13 回 現代アフリカ政治連続セミナー、オンライン開催（2025 年 8 月 7 日）
- 講演「映画『10 月 7 日からの Gaza』を視聴した大学生の感想紹介とアフリカのルワンダで起こったジェノサイド」映画『10 月 7 日からの Gaza』オンライン試写会（2025 年 8 月 15 日）
- 講演「ルワンダのガチャチャ裁判」東京大学大学院総合文化研究科「人間の安全保障」プログラム（HSP）セミナー、東京：東京大学
- 講演「ルワンダのガチャチャ裁判―ジェノサイドの被害者と加害者が共に暮らす農村社会―」コメンテーター：佐藤靖明長崎大学多文化社会学部准教授、 中村桂子長崎大学グローバルリスク研究センター准教授、長崎大学多文化社会学部・グローバルリスク研究センター主催セミナー、長崎：長崎大学
- 書評「自著を語る『ルワンダのガチャチャ裁判』『ルワンダの今』 」アフリカ日本協議会『アフリカ NOW』第 129 号 pp.27（2025 年 11 月発行）